

# 令和7年度学校自己評価システムシート ( 県立浦和第一女子高等学校 )

目指す学校像	世界で活躍できる知性と教養、逞しさを備え、社会に貢献する高い志を持った魅力あるリーダーを育成する女子高校
--------	--

重点目標	1 グローバルな視点で学びを支援し、自ら進路を切り拓く一女生を育成する。 2 部活動や学校行事などを通して、何事にも主体的に取り組む一女生を育成する。 3 外部連携を一層推進するとともに、一女の教育活動を積極的に発信する。
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	
学校関係者	8名
生徒	2名
事務局(教職員)	12名

学 校 自 己 評 価						学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 2 月 1 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	課題 次年度への課題と改善策	
1	<p>授業については、十分な教材研究に裏打ちされた内容で成果を上げているが、高い志を維持できる指導力の向上や、指導内容の精選等を進める必要がある。</p> <p>大規模改修の実施に伴い、施設面で教科等の学習活動に一定期間の制約が生じる中、安心して学習のできる環境維持が必要となる。</p> <p>本校の進路指導の方針について、教員全体での共有のみならず、引き続き保護者の理解と協力が促進されるよう取り組む必要がある。</p>	①学びの転換を促し、主体的であきらめない姿勢を育む指導を行う。	a 一人一台端末の授業等における効果的な活用を全校で共有する。 b 予習→授業→復習の黄金サイクルを軸とした学習習慣の確立を図る取組を行う。 c 指導方法、評価方法等について組織的に検討を進める。	ア 一人一台端末を活用した授業の工夫を行った教員100% イ 自主学習定着に向けた取組実施状況 ウ 教科指導に関するアンケート項目の肯定的回答9割以上	<p><b>例年と異なり工事と並行しての状況下でも、各教科で臨機応変に対応し、分かりやすい授業を実感させることができた</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立を目指した教科指導の実施割合100%、生徒自ら計画的に学習に取り組むよう工夫した割合100%【教】</li> <li>分かりやすい授業だと感じている割合92.8%【生】、86.6%【保】</li> <li>一人一台端末活用の肯定的な回答74.4%【教】</li> <li>1年生の86.5%がICTの活用に対する肯定的な回答【生】</li> <li>教科内で指導方法・評価方法等についての組織的な検討に対する肯定的な回答93.6%【教】</li> </ul>	B	<p>生徒の学びの転換を促し、自主学習の定着に向けた取組は継続的に実践されている。新教育課程の完成年度を迎え、各教科では効果を上げるために指導方法や評価方法について組織的に検討を進めているところである。一人一台端末については、今年度、全県的なネットワーク切替時期と重なり、教員側にも状況を注視する必要があったため、全県的な整備完了以降は、改めて効果的な活用に取り組むことが必要。</p>
		②高い志と誇りを育み実現する組織的な進路指導に全校を挙げて取り組む。	a 本校の進路指導の在り方を全職員で共有する取組を実施する。 b 安心・安全な環境の下、生徒同士で切磋琢磨できる場を提供し、集団意識を醸成する。 c 将来を見据えた高い志を育み、生徒・保護者の意識啓発を図る。	ア 指導の在り方等共有の取組実施状況 イ 生徒が共に学ぶ学習環境の設定状況 ウ 生徒に高い志を育ませる取組の状況 エ 共通テスト6教科受験率の状況 オ 保護者への啓発等の実施状況			
	<p>国際交流、探究活動については、多面的に取り組んでおり充実しているが、取組の工夫や一層の周知等が必要である。</p>	③本校の目指す人材育成に繋がる探究的な学びを提供する。	a 外部機関と連携を強化する。 b 学習活動を通じて主体性や課題解決型の知識・思考力を伸長する c SSH活動を中心とするSTEAM教育を展開する。 d 海外派遣・受入事業を実施する。	ア 外部機関との連携状況 イ 総合的な探究の時間の実施状況 ウ 国際交流の実施状況 エ SSHに係るアンケート項目の肯定的回答9割以上 オ 国際交流等に関するアンケート項目の肯定的回答9割以上	<p><b>探究学習・国際交流いずれも充実した内容で実施でき、台湾修学旅行の学校間交流も次年度以降に繋がる成果を得ることができた</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究学習で西村あさひ法律事務所・三菱東京UFJ&amp;Cと連携</li> <li>SSHに関して肯定的な回答95.5%【生】</li> <li>ベトナムフィールドワーク生徒19名参加、イギリス研修30名参加予定</li> <li>国際交流に関して肯定的な回答【生】84.8%</li> </ul>	A	<p>進路指導については生徒・保護者からの評価は高い割合で維持されている。次年度もさらなる向上を目指し、本校の進路指導の在り方を全職員で共有していくことが必要。</p> <p>国際交流・探究学習は効果的に実施され充実しているが、物価高騰などの影響を強く受けている。持続可能な方策の検討が急務。</p>
2	<p>部活動は、生徒が主体的に取り組む活性化しているが、引き続き学業と両立しながら持続的に取り組める環境整備が肝要である。学校行事も高い評価を得ているが、大規模改修に伴う円滑な対応が必要となる。</p> <p>外部連携も含めた組織的教育相談体制は整備されているが、引き続き適時適切な対応ができるよう取り組む必要がある。</p>	①円滑な運営・実施のため持続可能な体制を整備する。	a 生徒が意欲的に取り組める部活動運営を行う。 b 将来にわたり持続可能な部活動運営の在り方について検討する。 c 安心・安全な環境の下、生徒が主体的に取り組める学校行事を行う。	ア 部活動・学校行事に関するアンケート項目の肯定的回答9割以上 イ 部活動運営の在り方についての検討状況 ウ 学校行事の実施状況	<p><b>大規模改修工事の影響を受けつつも、関係分掌・部顧問等の臨機応変な対応及び生徒の主体的な取組により活性化することができた</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例年と異なり、文化祭と体育祭の時期を逆にして実施した</li> <li>肯定的回答:学校行事95.6%、部活動98.1【生】</li> <li>後援会会計と連動した将来課題に係る校内検討に着手した</li> </ul>	A	<p>部活動や学校行事等はいずれも活発だが、来年度以降も時期や場所、予算等の諸課題を踏まえた丁寧な対応が必要。さらに、指導教員の業務偏重への留意と、生徒保護者との間での理解協力関係が一層重要となる。</p>
		②組織的な教育相談体制を機能的に運営する。	a スクールカウンセラーとの連携を組織的に行う b 支援等の必要な生徒に係る情報共有を、全体で迅速に行う。	ア スクールカウンセラーの活用状況 イ 支援を必要とする生徒の情報の組織的共有状況			
3	<p>保護者向け情報発信は多面的で充実しているが、進路指導方針や各教育活動等について引き続き理解・協力が進むための工夫が必要である。</p> <p>中学生とその保護者に対しては、女子校の魅力をPRする新たな取組、あるいは学校としてPRできる材料が必要である。</p> <p>外部機関との連携は、一方通行ではない良好な協働関係のもと推進できるよう取り組む必要がある。</p>	①ニーズに応え、有益で質の高い情報発信を継続して行う。	a 各教育活動を幅広くHPで取り上げ、多面的に魅力を発信する。 b 一斉メール配信による保護者への情報発信を増強する。 c 学校説明会では、女子校の魅力や本校としてPRできる内容の工夫を図る。 d 外部説明会等へ積極的に関わる。	ア HPのアクセス回数70万回以上、更新回数300回以上 イ 一斉メールを用いた情報発信の状況 ウ 学校説明会の実施状況 エ 外部の説明会等への参加状況	<p><b>ニーズを意識した発信や、新規説明会開催等、発信力を強化できた</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HPアクセス数76万回、更新358回 ※1/26時点</li> <li>中学生への魅力発信の一環で公式インスタグラムを開始</li> <li>保護者への一斉メールは、1/26迄で昨年と同程度の83件配信</li> <li>学校説明会5回、ミニ説明会4回、小学生対象説明会1回実施し1,546組(△136)の生徒・保護者が来校</li> <li>塾関係者対象説明会を新規で2回開催し、約70名参加</li> </ul>	B	<p>HP、一斉メール、紙媒体等を活用した情報発信は新たな試みも交えながら積極的に実施。学校説明会等では参加者の評価は高い。中学生には、まず学校に足を運んでもらえるよう情報発信に更なる工夫が必要。</p>
		②外部との連携を見直し強化する。	a 地域や外部機関との連携を精選・重点化し進める。 b 麗風セミナー等、OG協力事業の実施により、生徒の意識啓発に繋げる。	ア 外部機関と連携した行事の実施状況 イ OGを活用した行事等の実施状況			